

帯広開発建設部

Web 広報誌

第21号

平成30年3月22日発行



出前講座

「国道274号の復旧について」

平成30年1月16日、帯広開発建設部 道路計画課・瓜生課長による出前講座が清水町文化センターにおいて開催されました。

瓜生課長は約1時間半にわたり、『平成28年度台風被害による国道の復旧状況について』と題し、平成28年夏に発生した台風の概要や国道の被災状況、復旧の軌跡について講話を行いました。



災害直後は車両での侵入は困難だったため徒歩や自転車、ドローンを使用するなどして行われた被災状況の把握。そこで被害の甚大さが明らかにになりました。

過去に経験したことのない被災規模から困難を極めた日勝峠復旧工事でしたが、様々な手段を駆使し、424日間での復旧、全面通行止め解除を完了させました。

講話では、その復旧までの道のりや早期復旧に大きく貢献した



日勝峠のその後
大雨災害を乗り越えて

建設業関係者の方々への感謝を述べるとともに、工事で採用された技術や被災当時の様子などを、写真や動画を用いて説明しました。

★出前講座を行っています

帯広開発建設部では、国民の皆さんに開発行政をより知ってもらうことを目的とする出前講座や現場見学会を行っています。子供から大人まで受講・見学会いただける幅広いメニューを用意していますので、是非ご利用ください。

詳しくはヨコをクリック

日勝峠感謝状授与式を行いました

平成29年10月28日に通行止めを解除した国道274号日勝峠の災害復旧工事の推進にご尽力いただいた日勝峠復旧工事連絡協議会」の14者に対し、平成30年1月29日に帯広開発建設部長から感謝状の贈呈を行いました。

「日勝峠復旧工事連絡協議会」は、日勝峠の復旧に関係する工事業者で組織された協議会です。

本協議会は、深い霧に包まれることの多い日勝峠において、工区間の意思疎通を図ることにより安全管理に配慮し、困難な気象条件に対応、円滑な進捗を図るなど、スムーズな現場運営や安全管理に大きく貢献されました。

建設業関係者をはじめとした多くの方のご協力により災害発生から1年2か月日後に通行止め解除を迎えることが出来ました。

たくさんのご協力頂きありがとうございます。

感謝状授与対象者(50音順・敬称略)

北電力設備工事(株)ークリアロード(株)
清水開発工業(株)ー(株)振興電気
大昭電気工業(株)ー丹野建設(株)ー東光舗道(株)
道路工業・東日本 建常建設共同企業体 道路工業(株)
道路工業・東日本 建常建設共同企業体 東日本道路(株)
(株)畑下組(株)平田建設(株)富士新舗道(株)
北央道路工業(株)ー宮坂建設工業(株)



↑写真は日勝峠通行止め解除に係る部長感謝状授与式の記念撮影の様子。

第61回 北海道開発 技術研究発表会

会場／北海道開発局研修センター

札幌市東区北6条東12丁目

2月20日～2月22日

2日目(20日)午前	2日目(20日)午後	3日目(21日)午前	3日目(21日)午後
9:00～9:30 開会式 9:30～10:00 北海道開発局職員、共同主催である寒地土木研究所の研究者のほか、民間業者の技術者によって行われます。発表時間は10分、質疑応答に5分の計15分が発表者の持ち時間となります。研究論文をもとに、PowerPoint等で作成された発表資料をスクリーンに映して説明を行います。 10:00～10:30 北海道開発局行政の推進という観点から、事務的要素を含む発表もなされており、北海道総合開発計画の推進や、建設業をPRするための建設業協会の取組なども発表されました。	10:00～10:30 北海道開発局職員、共同主催である寒地土木研究所の研究者のほか、民間業者の技術者によって行われます。発表時間は10分、質疑応答に5分の計15分が発表者の持ち時間となります。研究論文をもとに、PowerPoint等で作成された発表資料をスクリーンに映して説明を行います。 10:30～11:00 北海道開発局行政の推進という観点から、事務的要素を含む発表もなされており、北海道総合開発計画の推進や、建設業をPRするための建設業協会の取組なども発表されました。	10:00～10:30 北海道開発局職員、共同主催である寒地土木研究所の研究者のほか、民間業者の技術者によって行われます。発表時間は10分、質疑応答に5分の計15分が発表者の持ち時間となります。研究論文をもとに、PowerPoint等で作成された発表資料をスクリーンに映して説明を行います。 10:30～11:00 北海道開発局行政の推進という観点から、事務的要素を含む発表もなされており、北海道総合開発計画の推進や、建設業をPRするための建設業協会の取組なども発表されました。	10:00～10:30 北海道開発局職員、共同主催である寒地土木研究所の研究者のほか、民間業者の技術者によって行われます。発表時間は10分、質疑応答に5分の計15分が発表者の持ち時間となります。研究論文をもとに、PowerPoint等で作成された発表資料をスクリーンに映して説明を行います。 10:30～11:00 北海道開発局行政の推進という観点から、事務的要素を含む発表もなされており、北海道総合開発計画の推進や、建設業をPRするための建設業協会の取組なども発表されました。

技術研究発表会は、北海道開発事業に係る諸問題に関する調査、研究等の成果を発表することにより、技術等の向上とその普及を図ることを目的として毎年開催しており、今回で61回目を迎えました。発表される内容は北海道開発事業に関わるさまざまな問題を調査・研究したものであり、主催者からの指定課題のほか、自由課題として『地域』『産業』『環境』『防災』『管理』『推進』のカテゴリーの分類に沿ったものとなっています。その他、口頭での発表を主体とした「フリーセッション」や「技術資料の展示」により調査・研究等の成果が紹介されました。

研究発表の様子

研究発表は北海道開発局職員、共同主催である寒地土木研究所の研究者のほか、民間業者の技術者によって行われます。発表時間は10分、質疑応答に5分の計15分が発表者の持ち時間となります。研究論文をもとに、PowerPoint等で作成された発表資料をスクリーンに映して説明を行います。

北海道開発局行政の推進という観点から、事務的要素を含む発表もなされており、北海道総合開発計画の推進や、建設業をPRするための建設業協会の取組なども発表されました。



技術資料展示会場の様子



一階には、技術資料展示のブースがあり、各開発建設部での取組や、寒地土木研究所、民間業者の新技术がパネルで紹介されていました。展示をご覧になる方のためにパンフレットが数多く用意されており、興味のあるものを手に取りながら、観覧される様子もうかがえました。



→→→→→技術研究発表会の論文はHPで閲覧できます←←←←←

冬のとかち特集



今回は、冬の十勝の魅力を紹介します。

帯広開発建設部では、しばれフェスティバルに参加したほか、帯広氷まつりにて雪像の展示も行いました!!

しばれフェスティバルに参加しました



2.3 PM 18:00

日本一寒いまち陸別町で毎年開催される「しばれフェスティバル」の開会式が始まりました。

しばれで行われるイベントの中でも特に注目すべきは極寒の地・陸別で一夜を明かす耐寒テストです。今回、帯広開発建設部では部長を含めた19名が耐寒テストに挑みました。



PM 19:00

各所でバーベキューなどを行う人が多くいました。開会式から1時間、まだまだ余裕の表情です。会場には屋台やしばれ湯などが出ていたほか、ステージで行われるお笑いショーや地元アイドル「フルーティー」によるショーが行われ、盛り上がりはピークを迎えました。



←命の火

氷で出来た
かまぐら→

2.4 AM 0:00

開始直後の余裕は消え、参加者らの動きも少なくなってきました。会場中央に設置されている大きなキャンプファイヤー「命の火」やバーベキューコンロに身を寄せ合い寒さをしのぐ参加者たち。耐寒テスト参加者が利用できる宿泊用のかまぐらがありましたが、寒くてなかなか寝られない様子でした。



AM 7:00

耐寒テスト参加者全員でラジオ体操をして耐寒テスト終了です。極寒の中一夜を耐えぬき、朝を迎えることが出来た参加者には、『人間耐寒テスト認定証』が贈られます。これまでに総勢6000人以上の人が体験テストを体験し、認定証を受け取っています。

おびひろ氷まつりで雪像を展示しました



平成30年1月27日、帯広開発建設部では今年も雪像づくりを行いました。今年は大樹町でのロケット打ち上げにちなんでロケットの雪像を作ります。



シャベルなどで雪を削り、成形していきます。なんとなく形が見えてきました。



作業開始から二時間半後。ロケットの完成です。完成した作品は、2月2日から2月4日まで行われた帯広氷まつり会場において、展示されました。

十勝の冬のイベントや観光スポット

おびひろ氷まつりやしばれフェスティバルのほかにも、大津海岸で見られる「ジュエリーアイス」(右図)や冬の60日間だけ凍った湖の上に現れる幻の村「しかりべつ湖コタン」など、様々な冬の観光スポットがあります。

みなさんもぜひ一度、行ってみたいいかがでしょうか?

↓帯広開発建設部HPでは管内の冬のイベントも掲載しております。ぜひご覧ください。↓

http://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tiiki_sinkou/rfqnf000000000atq.html



「あしよろ銀河ホール21」がモデル道の駅(地域交通拠点部門)に認定

国土交通省では、「道の駅」の質的向上に向けた取組として、全国各地の「道の駅」の模範となって質的向上に寄与する“特定テーマ型モデル「道の駅」”の募集を平成27年度から行っています。

“地域交通拠点”がテーマとなった平成28年度の募集において、北海道内から足寄町の道の駅「あしよろ銀河ホール21」が認定されました。

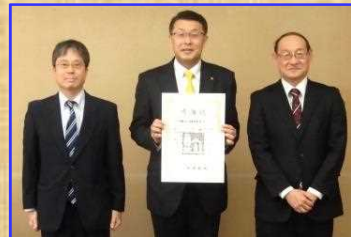
1月24日には国土交通本省庁舎で授与式が開催され、石井国土交通大臣から安久津足寄町長に認定書が手渡されました。

認定に関連して、同道の駅において長年に渡り路線と便数を維持するとともに、コミュニティバスとの連携協力といった公共交通接続機能の確保への貢献が認められたことにより、3月6日に十勝バス株式会社野村社長に河畑部長から感謝状が授与されました。

地域における「道の駅」の役割は重要度と多様性を増しています。これからも道の駅の機能の充実に支援してまいります。



授与式での石井大臣（左）と安久津足寄町長（右）



感謝状を手にする十勝バス株式会社野村社長

「十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート代表者会議」に道路協力団体指定証を交付

道路協力団体の公募により帯広開発建設部管内で指定第1号となった「十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート代表者会議」に対し、1月24日に鹿追町経済観光交流館において道路協力団体指定証の交付を行いました。

道路協力団体制度は、地域の実情に応じた道路管理の充実を図ることを目的とした制度で、平成28年4月に創設されました。

指定された同団体は、当部管内において「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」の取組として沿道での植樹や花植活動などを行っています。



三井代表（左）に認定書が交付された

「わが村は美しく-北海道」運動 第9回コンクール募集がスタート！

北海道開発局では、北海道内の農山漁村において、地域の活性化に貢献する住民主体の活動を支援し、農山漁村の発展に寄与することを目的に「わが村は美しく-北海道」運動を推進しています。

この運動の一環として、平成14年から2年に一度のサイクルでコンクールを開催しており、この度、第9回目となるコンクールの応募団体の募集が3月5日からスタートしました！

募集の詳細については、ホームページをご覧ください。地域住民が主体となって、農林水産業の生産活動との関わりがある地域づくりに取り組んでいる団体を募集しています。



ホームページは
チラシをクリック

十勝港・大津漁港の所管が4月から釧路開発建設部に変更となります

ホームページ等でお伝えしているとおり、4月1日から十勝港・大津漁港の所管が釧路開発建設部に変更となります。

皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご用の際は釧路開発建設部築港課又は釧路港湾事務所にお問い合わせください。

釧路開発建設部築港課
釧路港湾事務所

0154-24-7326
0154-51-4381



十勝の海の玄関口 十勝港